

教育を受ける権利

国際学部2年

黒澤 実奈

私がとちぎ自主夜間中学にパートナーとして関わらせていただいてから、およそ3か月経ちました。参加を決める前は色々悩んで、初回の授業まで落ち着かない気持ちでした。今ではこの夜間中学に関わるととてもうれしく思っています。

私は大学で教員免許の取得を目指しています。様々な教職の授業を取る中で、とある先生が「今、教育の自由がどんどん減っている」とおっしゃっていました。「定時制や夜間学校に行く人は、本当に学びたい人。一般の学生より熱意を持って勉強する」。その言葉に背中を押されて参加を決めたのですが、今思うと本当にその通りだと思います。

私は現在フィリピン人の17歳の女の子の高校進学を応援しています。彼女と初めて会ったのは11月のことでした。まだ来日して6か月弱なのに、日本語で会話が続くことに驚きました。後々知ったことですが、フィリピンの中学校にいたとき、かなり成績優秀だったそうです。3か月経った今では、文章も会話もはるかに上達しました。会って間もないころは、私からたくさん質問をしてなるべく会話を続けようと工夫していたのですが、今では彼女の方から話題を振ってくれ、友達のような会話を交わしています。

もともと勉強が得意だということもあるかと思いますが、何より彼女には熱意があります。彼女だけでなく、このとちぎ自主夜間中学に参加している学習者の方々はもちろん、パートナーの方々も全員熱意を持っています。そんな彼女は3月に高校入試を控えています。彼女はデザイナーを目指しています。専門的な知識が必要な職業なので、大学に行く必要があります。彼女ならどこにいても努力を怠らずに進学を目指すはずです。しかし、今彼女はどこの学校にも通っていません。私たちが進学の際に受けてきた学校からの支援が何もないのです。外国籍というだけで受験するのも許可が必要だったり、校長の裁量で試験内容が決まったりなど色々な困難があることに、とちぎ自主夜間中学に参加して初めて知りました。

教育を受ける権利は、すべての人が等しく持つ権利のはずです。教育はその人の今後の人生、さらには社会全体を変えてしまうほどの力を持っています。その力の根源は、熱意です。熱意は、学びたいという気持ちが生み出すものです。教育を受ける権利をすべての人が行使できるような社会になってほしいと思います。私も色々なことを学びつつ、できる限りの支援をしていこうと思います。